

第3回岩見沢市子ども・子育て会議議事録

日 時 令和元年9月30日（月）18：00～20：25

場 所 であえーる岩見沢4階 会議室1

1 開 会

2 議 事

報告事項

(1) 子どもの安全と安心に関する専門部会（第1回）の報告について

協議事項

(1) 第2期子ども・子育て支援事業計画に係るニーズ調査等の結果について

(2) 教育・保育ほか量の見込と確保策について

3 その他

4 閉会

事務局	子どもの安全と安心に関する専門部会（第1回）の報告について 第1回専門部会（9/5）での意見要旨（資料1）に基づき報告（内容省略）
委員A	<p>ありがとうございます。説明について、御質問ありますか。</p> <p>この話については、少し文脈をつけたほうが良いと思うのですが、この後議題にある子育てに関するニーズ調査等の結果の中で、家庭の構成別とか、就労形態とクロスにかけたデータを、みんなで共有してディスカッションしました。収入の低い人、高い人、就労についていない人、就労している人たちが、岩見沢市の子育て支援の施設やサービスについてどのくらい認識があるとか、活用したいと思うかといったことについてのクロスした集計データを見ながらです。就労形態がなかなか収入につながらないであろうと思われる方々が、岩見沢の施設やサービスのことを知らないとか、そもそも行くつもりがないとか、参加したくはないという回答がかなり多かったというのが、会議の中で結構ショックな話としてあって、このような議論になりました。そのようなデータを見ながら皆さん承認したというところがあったと思います。何かご質問はありますか。</p> <p>親の孤立を防ぐのところですが、「親だけが子どもを育てるわけではない」と誤解があるので、「親だけで子どもを育てるわけではない」と思います。修正していただくと、意図がもう少し伝わるかなと思います。</p>
事務局	ありがとうございます。

委員A	<p>児童館について、楽しくないなど言われていますけれども、どうですか。</p>
委員G	<p>全くショックです。放課後児童クラブの学年が拡大になって今は2年目です。それなりに、高学年のニーズに応じて色々頑張っているのですけれども。色々な企画をして頑張っているつもりですが、集団になじめない子もいて、また、関わりが嫌だと言う子もいます。今年は2年目ですので、様子を見ながら楽しくないと言われたいようにしたいとは思っているのですけれども。</p> <p>先ほどの話に戻ってよろしいですか。貧困関係について、ショックを受けたと言っていました、ショックを受けたのは保護者に知る気がないというか、あっても行かせるつもりはないということにですよね。それは、ちょっと難しいのだということでショックを受けたのか、その言葉自体に投げやりな言葉にショックを受けたのか、どちらなのですか。</p>
委員A	<p>ショックというのは、本来その方々にサービスを届けることを目的にしている施設なのだけれども、待っている形をとっていても届かないということがデータの上ではっきりしたことです。</p>
委員G	<p>仕方ないということですね。</p>
委員A	<p>はい。届いていないというか。あるけど、届いていないということです。箱はあっても来てくれなければ、動けなければ、なかなかサービスは届かないものになってしまいます。何かアプローチを考えなくてはいけないのだろうなという意味でのショックという言葉でした。</p>
事務局	<p>特に、親同士の口コミの情報というのは、PTA活動や親同士のコミュニケーションで行き交うことが多いと思うのですが、所得が高いほどPTA活動に参加が積極的で、所得が低いほど活動に参加して少なく、参加するつもりもないという答えが多い状況です。</p> <p>ですから、本来、所得が低い人に多くのサービスを届けたいと思って用意しておいても、一生懸命調べる方がいいのですけれども、口コミ情報を頼りにしているような方には、なかなか届かないという現実が数字としてあらわれたというのは、私たちにとってもショックな出来事でした。</p>
委員A	<p>部活動や少年団への参加も、やはり家庭の支えがあって参加できているようなデータでした。親の働き方によって、岩見沢市で用意されている子育てサポートの利用のあり方が違うのだということが、データの上ではっきりしました。</p>
委員G	<p>はい、ありがとうございます。</p>

委員A	<p>虐待のところは、今まで会議で話題になったところは、他の委員が出席していないので、私が代わりに発言します。札幌市の事例は、色々な意味で編み目が大きくて取りこぼしているところが見られましたけれども、岩見沢は小型なので人の顔が皆見えるところで行われていて、意外と編み目が細かいのだなということがわかりました。だからと言って安心していいかといったら、まだわからないし、その中のところは今後も考えていかなければいけないのだと思います。</p> <p>メンタル面の支援では、なかなか虐待は見えにくく支えにくいところがあるので、ここをどうしていくのかというのは、多分これは全国の課題だと思います。あとは、児童相談所の地域支援課の方が、とにかく児相だけではできないのだよということを、切々と訴えていらしたのが印象的でした。</p> <p>そういう意味では学校の御苦勞も増えると思いますし、やはり学校がプラットフォームになり、また、幼稚園、保育園などが子どもたちのメッセージを拾うというか、大事な場所になりますねという話を中心になっていました。</p> <p>よろしいですか。他に無ければ、次にいきたいと思います。第2期子ども子育て支援事業に係るニーズ調査等の結果について、まず資料2-1についてなのですが、報告書と自由意見のまとめがあります。これは分けて説明していただくと思います。まず、報告書について事務局から説明してください。</p>
事務局	<p>第2期子ども・子育て支援事業計画に係るニーズ調査等の結果について 報告書を用いて説明（省略）</p>
委員A	<p>ありがとうございます。膨大なデータの大事なところを引き出して、お示しいただきました。何か質問ありますか。</p>
委員K	<p>母親の就労状況のことなのですが、私が職場で就労支援を担当していた5年前は、お母さんたちは窓口で、働きたくともなかなか働けず、子どもの預け先がないとか、子どもがいるとすぐ不採用になってしまうと涙ぐむお母さんたちが多かったんです。最近は、預け先がないと苦勞している様子のお母さんがだんだん少なくなってきていると、職場の中でも話題になっています。会社も人手不足というのもあると思うのですけれども、今は求人を出すときに、お子様も一緒に連れてきていいですよとか、会社の中で一緒に面倒を見るので子ども同伴でいいですという求人も、多くはないですが増えてきました。保育園も、昔はお母さんが働いていたら子どもは同じ保育園に預けられませんでした。最近は預けられる保育園があったり、児童館も19時まで預けられるようになりました。そういったことも、少しずつ就労に結びついているのかなと思います。最近は、預け先がないことに悩んでいるお母さんたちは少ないなという印象を受けています。小学校の子ども参観日も、5年前は閑散としていたのですけれども、最近の参観日は教室に入れないぐらい多いときもあり、会社の理解度もだんだん高くなってきたのかなというのが、個人的な意見としてはあります。</p>

委員A	<p>ニーズ調査の話聞いていたら、もう両親は共働きが基本。週末は家族で休んでという流れができ始めてきているのでしょうか。休日は、子どもをじっくり見ていくというような流れです。</p>
事務局	<p>以前の感覚で言うと、所得が低いと子どもの参加機会が少ないという印象だったのですけれども、所得が高くなると忙しくてサポートができないという悩みが出てきて、低い層と高い層に特徴が極端に出てきています。ということは、支援の方法も所得の低いところにばかり注目していくのではなく、子どもの参加機会、体験の機会という視点で見るように、違ってきたのかなという感想を事務局ではもっていました。</p> <p>前回の専門部会でもそういったお話が出ていましたけれども、所得だけで機会が少ないと思いつむのではなくて、こういったデータをもとに考えていかなければいけないことがはっきり出た調査結果だなと事務局としては捉えています。</p>
委員C	<p>子育てサークルなどの自主的な活動に参加しているかという項目は、所得の高いほうだと時間がなくて、低いほうと高いほうと両方の参加が少ないというお話だったのですが、例えば足のあるなしと疑似相関がないのかなと思いました。また、子育てサークルとPTAとを一緒にした設問と集計になっていますが、基本PTAはほぼ全数参加になっています。お母さんたちはどんなふうに考えて答えていたのかなというのが見えないので、どうして参加しないのですかというところまで質問が欲しいなと思いました。</p>
事務局	<p>この結果を見ると、もっと更にこういうところはどうだったのかなと知りたくなるような、反省もあるのですけれども、追加の調査はできないので、次回の調査は、今回こういう結果が出たのでそれらを踏まえて、また5年後になってしまうのですが、そういった視点も必要だというのは、今回の調査で感じました。</p>
委員A	<p>でも、5年でこれだけ数字が動くということも驚きです。</p>
事務局	<p>そうですね、意外でした。</p>
委員A	<p>世の中の動きが、すごい勢いで変わってきているということですよ。就労形態とか、家族のあり方とか。もっと子育て中の人たちからニーズを聞かないと、これからの子育て支援策はなかなか大変かもしれないですね。子育てが済んだというか、子どもが大きくなった人たちが会議で集まっても、アイデアはもう古いアイデアになってしまうというリスクをととても感じるようなデータだなと思いました。</p> <p>まだ、続きがありますから、次に行きましょうか。次に、自由意見のまとめについてですね。それでは、事務局から説明してください。</p>

事務局	第2期子ども・子育て支援事業計画に係るニーズ調査等の結果について 自由意見のまとめを用いて説明（内容省略）
委員A	ありがとうございます。今のもボリュームが大きかったと思いますけれども、何か御意見をいただけますか。
委員C	産婦人科が厳しいですね。
委員A	厳しいですね。
委員H	児童館の開始時間ですが、意見を見ていたら、学校が休みの日は8時からとか8時半からとかなのですけれども、開館時間はその児童館に任せてあるという解釈なのですか。
事務局	全館統一しています。誰でも8時から来ていいのではなくて、出勤時間等で開館時間の8時半では間に合わないという方は、届け出をしていただいた上で8時から受け入れています。
委員H	届け出をすると8時から。それが、現状ということですね。
事務局	そうになっています。
委員A	意外と子ども・子育て会議の中で話題に出ていなかったものとして、公園のことがありますね。
委員C	公園の遊具は難しいと思うのです。小児科の Injury Alert（傷害速報）とか、色々な事故の現状を集めたようなのを見ても、今は事故対策がとても厳しくて安易に遊具を置けない雰囲気が強いので、お母さんたちの希望はわかるのだけれども、なかなか難しいことだなと専門分野として思います。
委員A	事故のことを考えると、どうしても、消極的になってしまいます。
委員C	幼稚園、保育園だと必ず人が見ていて遊ばせるから思い切ったものが置けますが、誰も見ていないところで遊ぶことのある公園に、普通のブランコでも落ちたり挟んだりするだけで色々なことが起きてしまいます。ですから、見る方からすると何も置きたくないなという気持ちになってしまいます。やはり親の立場からすると、お母さんたちが子どものときには色々な遊具がある公園が多かったでしょうから、遊具が無いと思うのではないかなと思います。

委員A	無いなりに遊べるような、何かが生まれてくるような体験があるといいということですね。その論法ですと。
委員C	今の子たちはこうやって遊びなさいという、遊び方が教えてくれるようなものがないと遊べない子が多いと思います。何もないところで遊び始めるということができない子が多い。何もないところで何でも好きなことをやって、けがと弁当は自分持ちという遊び方があるではないですか。
委員A	冒険遊び場ですね。プレイパークなどの取り組みです。
委員C	プレイパークも勝手に遊ばせるのではなくて、プレイパークの担当の、いわゆるプロフェッショナルがいて遊ばせるという形になっています。だから、けがと弁当は自分持ちなのですが、そのときに勝手に病院へ行きなさいではなくて、それなりの大人の手が入ることになっている状況です。例えば室内の遊び場、学校の例だけであれば、せつかく教育大もあることだから外の遊び場もあってもいいのにといい、突拍子もない意見はないわけではないのだと思います。
委員A	今後こういうことも、もしかしたら考える必要があるかもしれないですね。
事務局	常設型のプレイパークをつくるという考えなどですね。
委員A	<p>それもそうですし、例えばプレイワーカーの養成などがあります。子育てボランティアの、プレイワーカー資格の講習会があります。高度なものは大変だけれども、一般的な知識を持った大人を増やしていくことが少しずつできるようになってきているのかもしれないね。</p> <p>公園のことについて、今まであまり話されていないなと思いました。災害用としては機能しやすい場所ができていますが、なかなか子どもが遊ぶという視点で遊ぶ場所を作っていくことを、全国的にだんだんしなくなってしまっていると思います。取り組んでいる事例はありますが、そんなに多くなく、逆に目立っています。</p>
委員K	10 ページのところの意見で、こういうときはここに聞くとよいという相談窓口の案内があるとよいという意見があったのですが、私も今はこのような会議に出ているので、どこに聞けばいいのかわかりませんが、こういうときってどこに相談したらいいのだろうか、どこに電話したらいいのだろうか、パニックになっているお母さんも結構います。なので、職場でもそうなのですが、フローチャートのようなものがあるととってもわかりやすいのかなと思いました。そうすると、ここに電話すればいいのだとか、ここに相談すればいいのだとわかるので、簡単なフローチャートのようなものがあるといいのかなと思いました。

委員A	<p>どちらとも言えないという回答で、私のところには情報が届いていないというような反応がととても多いのと、ほかの町と比較ができないという、良いか悪いかわからないという回答の方々が結構いるんですね。満足と言っている方は、市外から入ってきたという方が多いような気がします。だから、市外と比較ができて人にするると岩見沢は悪くないではないかと言ってくれるけれども、ずっといる人たちにしてみると、何が良いのだから悪いのだからわからないということになってくるのでしょうか。また、情報が届きにくい立場の人たちからすると、情報は来ていないし、わからないという回答になっていますね。</p>
委員C	<p>情報が届きにくい人たちでも、何かの情報はゲットしていると思います。そういう人たちがつながりやすい情報源に情報を流していく必要があるのかなと思います。色々な情報が決して無いわけではないし、ほかの町に比べて劣っているとは思いません。しかし、間違ったらどうしよう、そこではなかったらどうしようという気持ちもあるので、電話などの連絡がしづらくなるのかなと思います。また、何でも電話と言われると今の人は電話が苦手なので、電話というだけで敷居が高くなるのかなと思います。</p>
事務局	<p>相談窓口は、就学前と就学後でそれぞれ1カ所です。子育て総合支援センターか教育支援センターで、全て網羅するようになっています。</p> <p>電話をするのはちょっとという方は、家族健康手帳というアプリから相談する方法があるのですけれども、それが届いていないのだと思います。それを届けるのにどうすればいいか取り組んでいくと、市ホームページに出すか広報いわみざわに出すかとなります。広報も1度掲載したら繰り返しはしませんので、たまたまその月を読んでいなければ読まないということになってしまう難しさはあると思います。</p>
委員A	<p>今は、もうアプリですよ。検索をかけて。旭川市がごみのものを始めましたよね。このごみは、いつ捨てるのかというのを知りたいときに、ごみの名前を入れて、スマホで検索できるシステムをサービスとして始めました。</p>
委員C	<p>アプリは、そんなに難しくないです。</p>
委員A	<p>そうですね。ホームページを見て、あなたの欲しい情報は何かと検索できるものはありますが、それ実際どのぐらいの人が使っているのでしょうか。</p>
委員C	<p>ページ内で検索すると、関係ないものもたくさん出てきます。</p>
委員A	<p>そうですね。たくさん拾ってしまう。</p>

事務局	情報を選ぶことで嫌になってしまうかもしれないですね。
委員C	そうなのですよ。ですから、それこそフローチャートになっていると思います。こちらから発信して情報が流れるシステムとしては、お母さんたちはLINEの画面は見るので、LINEで薬局などの売り出しのニュースが流れてくるように、こちらからニュースを流すようなものを活用するというのはどうなのかなと思います。
委員A	<p>具体的なアイデアは、多分色々出てくると思います。今度は何をテーマにどういう形になっていくのかなというところが大事ですね。今回の部分に、そのヒントとかいろいろ書いてあるという考えは良いと思いました。</p> <p>これは、ゆっくり読むとおもしろいですね。これから、一週間ぐらいお布団に持っていく。</p> <p>健診も、結構書いてありましたね。こういうのを一つ見るだけで、一つ何か批判されてしまうとちょっと痛いところがありますね。何点かあるうちの一つの答えですが、そう考えてしまいます。</p>
事務局	それは、仕方がないです。あっていないことが書かれていることもあります。本当はあるサービスなのにこういうサービスが無いと書かれていることも、結構見受けられます。
委員A	<p>よろしいですか。今日は、内容が豊富ですね。</p> <p>では、これを今日全部というわけにはいかないの、ぜひお目通しいただきたいと思います。</p> <p>次に行きましょう。協議事項の今度は資料2-2について、事務局から説明してください。</p>
事務局	一般向け市民アンケート調査の結果について 資料2-2を用いて説明(内容省略)
委員A	何かありますか。ないようでしたら、次に行きましょう。
事務局	事業所向けアンケート調査の結果について 資料2-3を用いて説明(内容省略)
委員A	<p>何か質問、御意見はないですか。</p> <p>このデータは、どこかで発表されるのですか。</p>
事務局	パブリックコメント(意見募集)があるので、そのときに集約したものを出すとか、一部広報や市ホームページに掲載する予定はあります。

委員A	この結果がどう活用されるのか、気になります。
事務局	基本はプランに反映させて、参考資料になります。子ども・子育て会議で出した資料はホームページで公開しています。今年度策定の第2期子ども・子育てプランについては、前回の計画でも取り上げてはいるがそれほど重く取り上げていなかった子どもの貧困や児童虐待に対するところについて、計画を少し厚めにしていきたいということで、このアンケート調査の結果をどのように反映できるかはまた次の会議の内容になりますが、そういったものに生かしていきたいと思っています。
委員A	なるほど、ありがとうございます。よろしいですか。 では、(2)に移りたいと思います。教育・保育ほか量の見込みや確保策について事務局から説明してください。
事務局	協議事項(2) 教育・保育ほか量の見込みや確保策について 資料3を用いて説明(内容省略)
委員A	膨大な量で、なかなかついていくのが大変でしたけど、ここまでで何か御質問ありますか。 子どもの数の減り具合が大きいですね。
事務局	傾向をまとめますと、幼稚園、保育園の入所数については0歳が足りないという課題があります。ただ、短期間で充足してくるので、安易に増やせないという問題があります。 もう一つは、幼稚園、保育園それぞれで定員にかなり空きが出てしまうことで、運営的にどんな課題があるのかというのが大きな点です。そのほかについては、それぞれの事業がニーズ量に対して全て充足しているので、サービスが足りなくて利用ができないということはありません。ただ、病児・病後児保育については数の上では充足しますけれども、使いたいといったときに必ず充足するか、例えばインフルエンザが流行しているときに全員が使えるかということ、病児で言えば3人しか枠がないので、そこは受け入れられません。ただ、そこを増やすかということ、今、稼働率が50%以下の状況で、安易に数をふやすことができない難しさがあります。 大きな課題としては、0歳児の受入枠の不足、幼稚園、保育園の利用者の大きな減少と病児・病後児保育を利用したいときに利用できないかもしれないという課題などであり、そのほかについては、充足しているのご理解いただければよろしいかと思えます。

委員A	<p>ありがとうございます。病児・病後児は本当に難しいですね。何かフレキシブルに増やして、どこかから持ってくるができるようなシステムがあればいいのですが、いつも同じ人たちが待っているというやり方だとどうまくいかないということですね。</p>
事務局	<p>いつも同じ人が待っている状況でないと国の補助金は受けられないので、運営できないというような課題はあります。</p>
委員A	<p>国が、そうしていなければいけないということをしているのですね。</p>
事務局	<p>利用があるときに柔軟に人数を増やしてもいいとか、利用しないときは人がいなくてもいいというような制度であればいいのですけれども、そうではないので、いつ利用があるかはわからないので必ず2人配置しなさいということになっています。増やしたところで、稼働率はさほど変わらないということになってしまうので、そうしたことから定員を増やすのは難しいです。</p> <p>病児・病後児保育施設以外の預かれるところといっても、病気のときの預かりはなかなか難しいので、そこを簡単に広げていけるかということ、例えばファミリー・サポートを緊急サポートにして、病児の預かりを受けられるようにできないか、ファミリー・サポート・センターと調整しています。しかし、知識・ノウハウのあつて1日子どもとぴったり向き合える人という、担い手がないという難しさもあります。</p>
委員A	<p>このあたりが、アイデアの出どころですね。ただ、国はそういうところに合わせた制度は作っていないということですね。</p>
事務局	<p>そこは、作れていない状況です。</p>
委員A	<p>ほかに何かありますか。今回の会議はここがメインだったのですね。ここへ来るまで大分かかってしまいました。でも、全体の人口の減り方は、まだ将来に続き、高齢者の方の人数はほとんど変わらないけれども、若い人たちだけ減っていくという問題がわかりました。</p> <p>ほかに御意見なければ、本日の議事は以上で終わることにします。</p>
事務局	<p>閉会 (20 : 25)</p>